



FACT BOOK 2019

目次

コーポレート編

- 2 会社概要
- 2 企業理念(企業目的・経営理念・行動指針)
- 3 業績の推移
- 3 売上高の事業別内訳
- 3 売上高の地域別内訳
- 4 組織図
- 5 役員・執行役員
- 6 主な子会社・関連会社
- 7 沿革
- 8 従業員数/賃金・一時金/新卒採用者数

製品・事業編

- 10 二輪車
- 13 ボート
- 14 マリンエンジン
- 16 ウォータービークル
- 17 プール
- 18 ATV・ROV
- 19 スノーモビル
- 20 ゴルフカー
- 21 発電機
- 21 除雪機
- 22 電動アシスト自転車
- 24 電動車いす
- 25 サーフェスマウンター・産業用ロボット
- 26 自動車用エンジン
- 27 産業用無人ヘリコプター
- 26 その他



FACT BOOK 2019

コーポレート編

▶ 会社概要

社 名：ヤマハ発動機株式会社（英語名：Yamaha Motor Co., Ltd.）
創 立：1955年(昭和30年)7月1日
本 社 所 在 地：静岡県磐田市新貝2500
代表取締役社長：日高 祥博(ひだか よしひろ)
資 本 金：857億97百万円 (2018年12月末現在)
発 行 株 式 数：発行可能株式総数900,000,000株
発行済株式総数 349,914,284株 (2018年12月末現在)
従 業 員 数：ヤマハ発動機(株)連結会社計 53,977人
ヤマハ発動機(株)単体 10,614人 (2018年12月末現在)
関 係 会 社：連結子会社113社(国内20社/海外93社)
持分法適用子会社3社
持分法適用関連会社27社 (2018年12月末現在)
事 業 内 容：モーターサイクル、スクーター、電動アシスト自転車、ボート、ヨット、ウォータースポーツ、プール、和船、漁船、船外機、四輪バギー、レクリエーショナル・オフハイウェイ・ビークル、レーシングカート用エンジン、ゴルフカー、汎用エンジン、発電機、ウォーターポンプ、スノーモビル、小型除雪機、自動車用エンジン、サーフェスマウンター(表面実装機)、産業用ロボット、産業用無人ヘリコプター、車いす用電動ユニット、乗用ヘルメット等の製造および販売。各種商品の輸入・販売、観光開発事業およびレジャー、レクリエーション施設の経営並びにこれに付帯する事業。



本 社

▶ 企業理念

<企業目的>

感動創造企業

世界の人々に新たな感動と豊かな生活を提供する

人々の夢を知恵と情熱で実現し、つねに「次の感動」を期待される企業

それが、感動創造企業・ヤマハ発動機である。

<経営理念>

1. 顧客の期待を超える価値の創造

私たちは、感動を生む価値を創造するために、変化する顧客の夢を追求しなければならない。

顧客の期待を超える、安全で質の高い商品とサービスの提供を目指し、適正な利益を得る工夫をしなければならない。

2. 仕事をする自分に誇りが持てる企業風土の実現

私たちは、個人の自主性から活力を生み出す風土をつくらなければならない。

創造性豊かな人材の育成と能力開発を重視し、公正な評価と処遇が行われる組織を実現しなければならない。

3. 社会的責任のグローバルな遂行

私たちは、世界的な視野と基準で行動しなければならない。

地球環境や社会との調和に努め、公正で誠実な事業活動を通じて、社会的責任を果たす企業でなければならない。

<行動指針>

スピード あらゆる変化に素早く対応

挑 戦 失敗を恐れず、もう一段高い目標に取り組む

やり抜く 粘り強く取り組み、成果を出し、振り返る

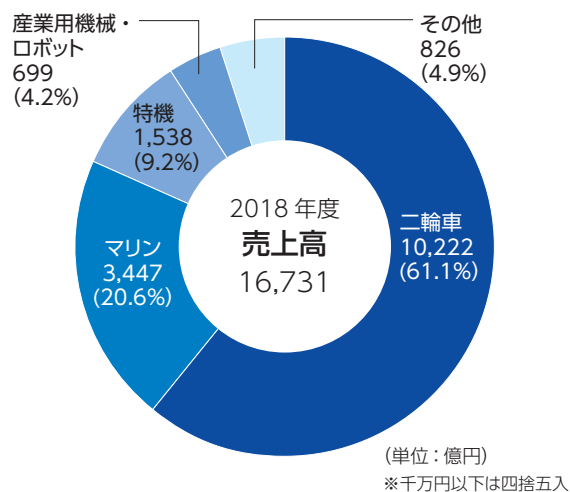
業績の推移 (連結)

(単位：億円) ※千万円以下は四捨五入

年度	2016	2017	2018	2019 (計画)
売上高	15,028	16,701	16,731	17,000
営業利益	1,086	1,498	1,408	1,330
経常利益	1,021	1,548	1,380	1,350
親会社株主に帰属する当期純利益	632	1,016	934	850
為替レート (1 ドル)	109円	112円	110円	105円
為替レート (1 ユーロ)	120円	127円	130円	120円
設備投資	613	565	551	660
減価償却費	424	455	464	465
研究開発費	949	992	1,028	1,000
自己資本比率	40.5%	44.0%	45.9%	46.5%
有利子負債	3,644	3,535	3,567	4,000
D/E レシオ (グロス)	0.68	0.57	0.54	0.56
ROE	12.3%	17.6%	14.6%	12.3%
現金および現金同等物の期末残高	1,355	1,556	1,382	—
海外の売上高比率	89.1%	89.8%	90.0%	89.4%
二輪車事業の売上高比率	61.9%	62.6%	61.1%	59.6%*
営業活動によるキャッシュフロー	1,432	1,263	589	—
投資活動によるキャッシュフロー	▲465	▲532	▲483	—
財務活動によるキャッシュフロー	▲676	▲528	▲264	—

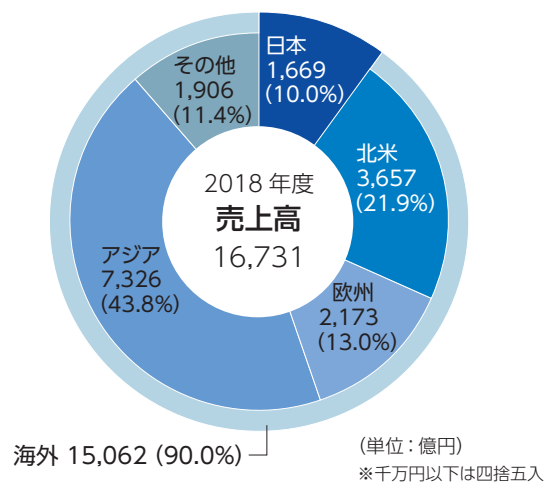
※2019年12月期連結会計年度より、金融サービス事業を各製品事業から独立させる変更を実施します。
これにより、2019年(計画)の「二輪車事業の売上高比率」は、金融サービス事業を除いた売上金額にて算出しています。

売上高の事業別内訳 (連結)

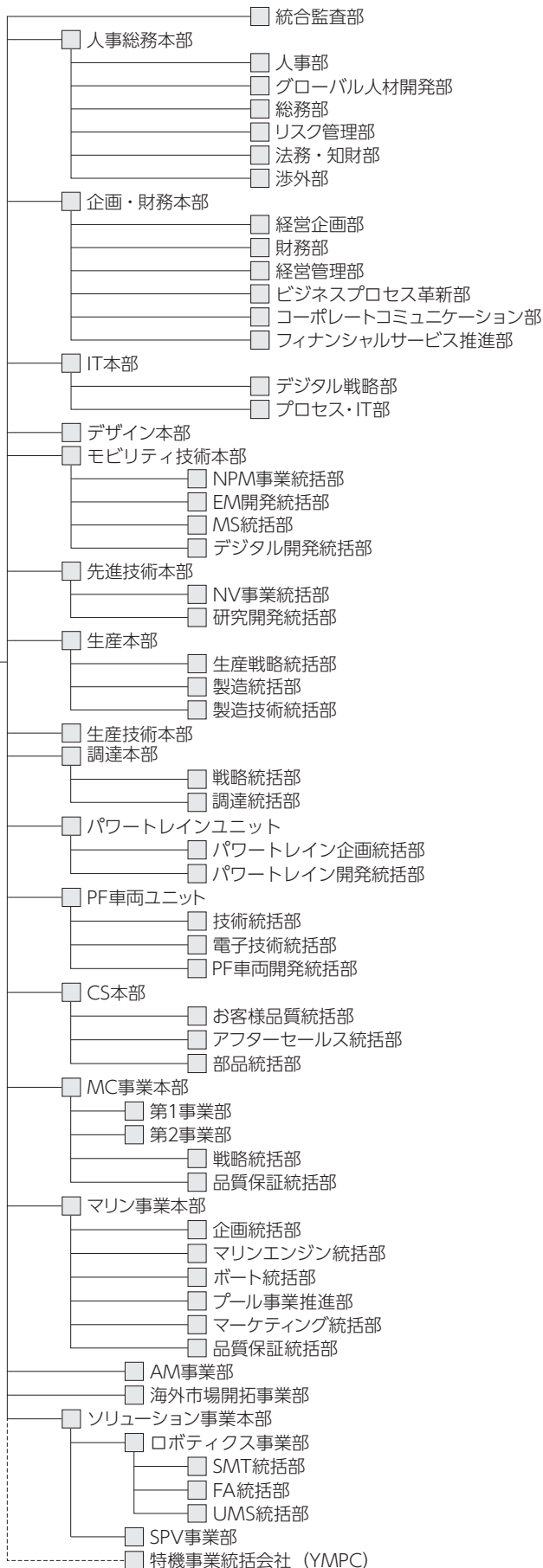
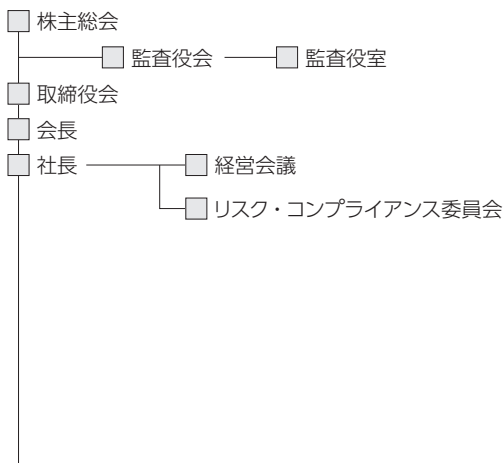


「二輪車」の対象=二輪車・海外生産用部品など
「マリン」の対象=船外機・ボート・ウォータービークル・プールなど
「特機」の対象=ATV・ROV・スノーモビル・ゴルフカー・発電機など
「産業用機械・ロボット」の対象=サーフェスマウンター・産業用ロボットなど
「その他」の対象=電動アシスト自転車・自動車用エンジンなど

売上高の地域別内訳 (連結)



▶ 組織図 (2019年4月1日現在)



<略記について>

- IT= インフォメーションテクノロジー
- NPM= ニューパーソナルモビリティ
- EM= エレクトリックモビリティ
- MS= モータースポーツ
- NV= ニューベンチャー
- PF= プラットフォーム
- CS= カスタマーサービス
- MC= モーターサイクル
- AM= 自動車用エンジン
- SMT= サーフェスマウントテクノロジー
- FA= ファクトリーオートメーション
- UMS= Unmanned System (アンマンドシステム)
- SPV= スマートパワービークル (電動アシスト自転車など)
- YMPC= ヤマハモーターパワープロダクツ株式会社

▶ 役員・執行役員 (2019年4月1日現在)

取締役

代表取締役会長 柳 弘之(やなぎ ひろゆき)



代表取締役社長 日高 祥博(ひだか よしひろ)
管掌：人事総務・マリン領域



代表取締役 渡部 克明(わたなべ かつあき)
管掌：MC・CS・市場開拓・AM・
先進技術領域



取締役 加藤 敏純(かとう としずみ)
管掌：ソリューション・特機領域、提携戦略

取締役 山地 勝仁(やまじ かつひと)
管掌：生産・生産技術・調達・パワートレインユニット領域

取締役 島本 誠(しまもと まこと)
管掌：車両開発・デザイン領域

取締役 大川 達実(おおかわ たつみ)
管掌：IT・デジタル領域

取締役(社外) 中田 卓也(なかた たくや)

取締役(社外) 玉塚 元一(たまつか げんいち)

取締役(社外) 上釜 健宏(かみがま たけひろ)

取締役(社外) 田代 祐子(たしろ ゆうこ)

監査役

監査役(常勤) 廣永 賢二(ひろなが けんじ)

監査役(常勤) 齋藤 順三(さいとう じゅんぞう)

監査役(社外) 伊香賀 正彦(いかが まさひこ)

監査役(社外) 米 正剛(よね まさたけ)

執行役員

社長執行役員 日高 祥博(ひだか よしひろ)

副社長執行役員 渡部 克明(わたなべ かつあき)

常務執行役員 加藤 敏純(かとう としずみ)

常務執行役員 山地 勝仁(やまじ かつひと)

上席執行役員 島本 誠(しまもと まこと)
モビリティ技術本部長

上席執行役員 大川 達実(おおかわ たつみ)
企画・財務本部長

上席執行役員 藤田 宏昭(ふじた ひろあき)
先進技術本部長

上席執行役員 桑田 一宏(くわた かずひろ)
ヤマハモーターUSA 社長

上席執行役員 臼井 博文(うすい ひろふみ)
マリン事業本部長

上席執行役員 丸山 平二(まるやま へいじ)
パワートレインユニット長
(兼)パワートレインユニットパワートレイン企画統括部長
(兼)AM事業担当
(兼)モビリティ技術本部モビリティ企画推進担当

上席執行役員 松山 智彦(まつやま さとひこ)
生産本部長

執行役員 長屋 明浩(ながや あきひろ)
デザイン本部長

執行役員 森本 実(もりもと みのる)
ヤマハインドネシアモーターマニュファクチャリング 社長

執行役員 田中 康夫(たなか やすお)
CS本部長

執行役員 設楽 元文(したら もとふみ)
ヤマハモーターインディア 社長
(兼)インディアヤマハモーター 社長
(兼)ヤマハモーターインディアセールス 社長

執行役員 Eric de Seynes(エリック ドゥ セイン)
ヤマハモーターヨーロッパ 社長

執行役員 Dyonisius Beti(ディオニシウス ベティ)
ヤマハインドネシアモーターマニュファクチャリング COO

執行役員 野末 季宏(のすえ としひろ)
マリン事業本部マリンエンジン統括部長

執行役員 広瀬 聡(ひろせ さとし)
生産本部副本部長
(兼)生産本部製造統括部長

執行役員 太田 裕之(おおた ひろゆき)
ソリューション事業本部長

執行役員 大谷 到(おおたに いたる)
人事総務本部長

執行役員 野田 武男(のだ たけお)
企画・財務本部副本部長

執行役員 井端 俊彰(いばた としあき)
マリン事業本部ボート統括部長

執行役員 西田 豊士(にしだ とよし)
PF車両ユニット長

執行役員 木下 拓也(きのした たくや)
MC事業本部長

執行役員 山田 典男(やまだ のりお)
IT本部長

執行役員 増田 辰哉(ますだ たつや)
調達本部長

執行役員 村木 健一(むらき けんいち)
生産技術本部長

▶ 主な子会社・関連会社

日本

ヤマハ発動機販売(株)
ヤマハモーターエンジニアリング(株)
(株)菅生
ヤマハ熊本プロダクツ(株)
ヤマハマリン北海道製造(株)
ヤマハ天草製造(株)
ヤマハマリーナ(株)
(株)ワイズギア
ヤマハモーターパワープロダクツ(株)
西日本スカイテック(株)
ヤマハモーターエレクトロニクス(株)
(株)サンワード
ヤマハモーター精密部品製造(株)
浜北工業(株)
ヤマハモーターハイドロリックシステム(株)
ヤマハモーターアシスト(株)
ヤマハモーターサポート&サービス(株)
ヤマハ発動機メンテナンスサービス(株)
ヤマハモーターMIRAI(株)
ヤマハモーターソリューション(株)
(株)エコールとよはし
あまがさき健康の森(株)
北日本スカイテック(株)
東海スカイテック(株)
サクラ工業(株)
A.I.S(株)
エンシウ(株)
古山精機(株)
(株)ヤマハトラベルサービス
(株)ジュピロ
三笠運輸(株)
KYBモーターサイクルサスペンション(株)
イーベック(株)
(株)ノースセール・ジャパン
泉佐野ウォーターフロント(株)
(株)マリンウェア小樽
(株)銚子マリーナ
(株)マリーナ秋田
(株)葉山マリーナー
横浜ベイサイドマリーナ(株)
フィッシャリーナ天草(株)
新西宮ヨットハーバー(株)
(株)ひろしま港湾管理センター

北米 ()内は略称表記

アメリカ

Yamaha Motor Corporation, U.S.A. (YMUS)
Yamaha Motor Manufacturing Corporation of America (YMMC)
Yamaha Marine Precision Propellers Inc. (YPPI)
Yamaha Marine Systems Company Inc.
Skeeter Products, Inc.
Yamaha Jet Boat Manufacturing U.S.A., Inc. (YJBM)
Yamaha Golf-Car Company (YGC)
INDUSTRIAL POWER PRODUCTS OF AMERICA, INC.
Yamaha Motor Finance Corporation, U.S.A. (YMFUS)
Yamaha Motor Golf-Car Lease Receivable Corporation (YGCR)
Yamaha Motor Receivables Corporation
Yamaha Motor Ventures & Laboratory Silicon Valley Inc. (YMVSV)
Yamaha Motor Distribution Latin America, Inc. (YDLA)
カナダ
Yamaha Motor Canada Ltd. (YMCA)
Yamaha Motor Finance Canada Ltd.

欧州 ()内は略称表記

オランダ

Yamaha Motor Europe N.V. (YMENV)

ドイツ

Yamaha Motor Deutschland GmbH. (YMG)
イタリア
Motori Minarelli S.p.A.
Yamaha Motor Research & Development Europe S.r.l. (YMR)
Yamaha Motor Racing S.r.l. (YMR)
Selva S.p.A.
フランス
MBK Industrie
スペイン
Motor Center BCN S.A.
トルコ
Yamaha Motor Sanayi ve Ticaret Limited Sirketi
フィンランド
Inhan Tehtaata Oy Ab
ロシア
LLC Yamaha Motor CIS (YMCIS)
ギリシャ
Motodynamics S.A.

アフリカ ()内は略称表記

ナイジェリア

CFAO Yamaha Motor Nigeria Ltd. (CYMNG)

オセアニア ()内は略称表記

オーストラリア

Yamaha Motor Australia Pty Limited (YMA)
Ficeda Pty Limited
Yamaha Motor Finance Australia Pty Limited (YMFA)
Australian Motorcycle and Marine Finance Pty Ltd.
Yamaha Motor Insurance Australia Pty. Ltd.
ニュージーランド
Yamaha Motor New Zealand Limited (YMNZ)
Yamaha Motor Finance New Zealand Limited (YMFNZ)
Yamaha Motor Insurance New Zealand Limited
ミクロネシア
TriFork Reinsurance Corporation

アジア ()内は略称表記

インドネシア

PT. Yamaha Indonesia Motor Manufacturing (YIMM)
PT. Yamaha Motor Parts Manufacturing Indonesia (YPMI)
PT. Yamaha Motor Nuansa Indonesia (YMNII)
PT. Toyo Besq Precision Parts Indonesia (TBI)
PT. Yamaha Motor Electronics Indonesia (YEID)
PT. Yamaha Motor Mold Indonesia (YMMID)
PT. Yamaha Motor R&D Indonesia (YMRID)
PT. Sakura Java Indonesia
PT. Kyowa Indonesia
PT. Bussan Auto Finance (BAF Indonesia)
フィリピン
Yamaha Motor Philippines, Inc. (YMPH)
LIYAM Property, Inc.
タイ
Thai Yamaha Motor Co., Ltd. (TYM)
Yamaha Motor Parts Manufacturing (Thailand) Co., Ltd. (YMPT)
TYMA Co., Ltd.
Yamaha Motor Electronics Thailand Co., Ltd. (YETH)
Yamaha Motor Asian Center Co., Ltd. (YMAC)
マレーシア
HL Yamaha Motor Research Centre Sdn. Bhd. (HLYR)
Hong Leong Yamaha Motor Sdn. Bhd. (HLYM)
Hicom Yamaha Manufacturing Malaysia Sdn. Bhd.

ベトナム

Yamaha Motor Vietnam Co., Ltd. (YMVN)
Yamaha Motor Parts Manufacturing Vietnam Co., Ltd. (YPMV)

Yamaha Motor Electronics Vietnam Co., Ltd. (YEVN)

インド

Yamaha Motor India Pvt. Ltd. (YMI)
India Yamaha Motor Pvt. Ltd. (IYM)
Yamaha Motor India Sales Pvt. Ltd. (YMIS)
Yamaha Motor Electronics India PVT. Ltd. (YEIN)
Yamaha Motor Research and Development India Pvt. Ltd. (YMRI)
Yamaha Motor Solutions India Pvt. Ltd. (YMSLI)
KYB Motorcycle Suspension India Pvt. Ltd. (KMSI)
Bussan Auto Finance India Pvt. Ltd. (BAF India)

パキスタン

Yamaha Motor Pakistan (Private) Limited (YMPK)
シンガポール
Yamaha Motor Asia Pte. Ltd. (YMAP)
Yamaha Motor Distribution Singapore Pte. Ltd. (YDS)

台湾

Yamaha Motor Taiwan Co., Ltd. (YMT)
Topmost Consulting Co., Ltd. (TCC)
Yamaha Motor R&D Taiwan Co., Ltd. (YMRT)
Yamaha Motor Taiwan Trading Co., Ltd. (YMTT)
Yamaha Motor Electronics Taiwan Co., Ltd. (YETW)

中国

Yamaha Motor (China) Co., Ltd. (YMCN)
Shanghai Yamaha Jianshe Motor Marketing Co., Ltd. (YMSM)
Zhuzhou Yamaha Motor Shock-absorber Co., Ltd. (ZYS)
Yamaha Motor R&D Shanghai Co., Ltd. (YMRS)
Yamaha Motor Powered Products Jiangsu Co., Ltd. (YMPJ)
Yamaha Motor Electronics Suzhou Co., Ltd. (YESZ)
Yamaha Motor Solutions Co., Ltd. Xiamen (YMSLX)
Yamaha Motor IM (Suzhou) Co., Ltd. (YIMS)
Chongqing Jianshe Yamaha Motor Co., Ltd. (CJYM)
Zhuzhou Jianshe Yamaha Motor Co., Ltd. (ZJYM)
Jiangsu Linhai Yamaha Motor Co., Ltd. (LYM)
Sichuan Huachuan Yamaha Motor Parts Manufacturing Co., Ltd. (SHY)
Chongqing Pingshan TK Carburetor Co., Ltd. (PTK)

中南米 ()内は略称表記

ブラジル

Yamaha Motor do Brasil Ltda. (YMDB)
Yamaha Motor da Amazonia Ltda. (YMDA)
Yamaha Motor Componentes da Amazonia Ltda. (YMCDA)
Yamaha Motor Electronics do Brasil Ltda. (YEBR)
Yamaha Administradora de Consorcio Ltda. (YAC)
Yamaha Motor do Brasil Servicos Financeiros Participacoes Ltda.
Banco Yamaha Motor do Brasil S.A. (BYMD)
Yamaha Motor do Brasil Corretora de Seguros Ltda. (YMDCS)
Yamaha Motor do Brasil Logistica Ltda. (YMBL)

アルゼンチン

Yamaha Motor Argentina S.A. (YMARG)

ウルグアイ

Yamaha Motor Uruguay S.A. (YMUUY)

ペルー

Yamaha Motor del Peru S.A. (YMDP)
Yamaha Motor Selva del Peru S.A. (YMSP)

コロンビア

Industria Colombiana de Motocicletas Yamaha S.A. (Incolmotos Yamaha)

メキシコ

Yamaha Motor de Mexico, S.A. de C.V. (YMMEX)
Yamaha Motor Consorcio Mexico, S.A. de C.V.
Yamaha Motor Personnel Service Mexico, S.A. de C.V. (YMPSMX)

(2018年12月末現在)

沿革

- **1955年**
ヤマハ発動機(株)設立、初代社長に川上源一が就任
二輪車の第1号機[YA-1]の生産に着手
第3回富士登山レースの125ccクラスで[YA-1]が優勝
第1回全日本オートバイ耐久ロードレース(浅間高原レース)で1~3位を独占
- **1958年**
海外レース初参戦となったカタリナGP(アメリカで開催)で6位入賞
日本楽器製造(現在のヤマハ)株式会社がメキシコに現地法人を設立し、当社製品の販売を開始
- **1960年**
日本楽器製造(現在のヤマハ)株式会社がアメリカに現地法人を設立し、当社製品の販売を開始
船外機の第1号機[P-7]を発売
FRP製ボートの第1号艇[CAT-21]と[RUN-13]を発売
- **1961年**
東京証券取引所第1部に新規上場(資本金8億円、160万株)
世界GPロードレースに初参戦
第1回太平洋1000Kmモーターボートマラソンで[CAT-21]が優勝
- **1963年**
インドに二輪車の製造/販売会社パール・ヤマハを設立
世界GPロードレース: ベルギーGPの250ccクラスで初優勝
- **1964年**
世界GPロードレースの250ccクラスで初のメーカー&ライダーチャンピオン獲得
タイに二輪車の製造/販売会社サイアム・ヤマハを設立
- **1965年**
トヨタ自動車工業(株)と「トヨタ2000GT」の製作で業務提携、東京モーターショーに出品
当社初となるFRP漁船を建造
- **1966年**
日本楽器製造(株)から当社に輸出業務を全面移管
台湾の功學社股公司与二輪車の生産技術援助契約を締結
- **1968年**
オランダに販売統括会社YMENVを設立
シカゴのトレードショーにスノーモビルの第1号機[SL350]を出品
FRP和船の第1号艇[W-16][W-18]を発売
- **1969年**
汎用エンジンの第1号機[MT100]を発売
- **1970年**
ブラジルに販売会社YMDBを設立
- **1971年**
インドネシアに二輪車の製造会社ハラパンモーター社を設立
- **1972年**
本社を静岡県磐田市に移転
世界GPモトクロス第10戦: スウェーデンGPの250ccクラスで初優勝
世界GPモトクロス第11戦: ルクセンブルクGPの500ccクラスで優勝
- **1973年**
カナダに販売会社YMCAを設立
アメリカのブランドウィック社と合併契約を締結
世界GPモトクロス第250ccクラスで初のメーカー&ライダーチャンピオンを獲得
ポータブル発電機の第1号機[ET1250]を発売
レーシングカートの第1号車[RC100]を発売
- **1974年**
第2代社長に小池久雄が就任
世界GPロードレースの出場全クラス(125cc、250cc、350cc、500cc)でメーカーチャンピオン獲得
インドネシアに二輪車製造会社YIMMを設立
FRPブールの製造・販売を開始
- **1975年**
ゴルフカーの第1号機[YG292]を発売
- **1976年**
産業用ロボットの第1号機「アーク溶接ロボット」を発売
マリンディーゼルの第1号機[MD35]を発売
- **1977年**
日本楽器製造のアメリカ現地法人から当社関連部門が販売会社YMUSとして独立
世界GPモトクロス第500ccクラスで初のメーカー&ライダーチャンピオンを獲得
- **1978年**
ランドカーの第1号車[G1-9AD]を発売
除雪機の第1号機[YT665]を発売
- **1979年**
ATVの第1号車[YT125]をアメリカで発売
第1回パリ・ダカールラリーで「XT500」が総合優勝
- **1981年**
スペインに二輪車の製造/販売会社SEMSAを設立
- **1982年**
フランスのモトベカーズ社と二輪車の製造/販売について業務提携
- **1983年**
第3代社長に江口秀人が就任
ブラジルに二輪車・船外機の製造会社YMDAを設立
中国の北方工業公司と二輪車の技術援助契約を締結
オーストラリアに販売会社YMAを設立
インドのエスコーツ社と二輪車の技術援助契約を締結
- **1984年**
フォード社と自動車エンジン供給の仮契約を締結
イタリアのモトーリ・ミナレリ社と技術援助契約を締結
- **1986年**
アメリカにゴルフカー、ATV、水上オートバイの製造会社YMMCを設立
台湾に二輪車の製造/販売会社YMTを設立
イタリアのベルガルダ社と技術援助契約を締結
水上オートバイの第1号艇[IMJ-500T]を発売
- **1987年**
自社ブランドのサーフェスマウンターの第1号機「21シリーズ」を発売
ガスヒートポンプエアコン(GHP)の第1号機[YGC401W]を発売
産業用ヘリコプターの第1号機[R-50]20機を限定発売
- **1989年**
F1世界選手権レースにヤマハレーシングエンジン[OX88]搭載車が初参戦
- **1990年**
企業理念“感動創造企業”と長期経営ビジョンを策定
ポルトガルに販売会社YMPを設立
- **1991年**
フランスに販売会社YMFを設立
メキシコに二輪車の製造/販売会社YMMEXを設立
- **1992年**
中国に二輪車の製造会社CJYMを設立
オーストラリアに販売会社YMAGを設立
ハンガリーに販売会社YMHを設立
- **1993年**
中国に二輪車製造会社NYMを設立
電動アシスト自転車[PAS]を地区限定で発売
- **1994年**
第4代社長に長谷川武彦が就任
中国に二輪車製造会社LYMを設立
- **1995年**
車いす電動化ユニット「JW-I」の販売を開始
インドに二輪車の製造/販売会社EYMLを設立
- **1996年**
アルゼンチンに二輪車の製造/販売会社YMARGを設立
- **1997年**
インドネシアに浄水器の製造/販売会社YMNIを設立
- **1998年**
ベトナムに二輪車の製造/販売会社YMVNを設立
シンガポールに金融・物流等の統括会社YMAPを設立
ペルーに販売会社YMDPを設立
- **2000年**
トヨタ自動車と資本提携、業務提携を強化
- **2001年**
第5代社長に長谷川至が就任
- **2002年**
エレクトリック通勤用自転車「Passo」を地域限定で発売
日本国内向け50ccスクーターの生産を台湾に移管
- **2004年**
世界GPのMotoGPクラスで初のライダーチャンピオンを獲得
- **2005年**
第6代社長に梶川隆が就任
ロシアに販売会社YMCISを設立
静岡県袋井市にパイオ事業の研究開発拠点を開設
世界GPのMotoGPクラスで初のメーカー、チーム、ライダーの3冠獲得
- **2006年**
インドネシアで二輪車製造会社YMMWJが操業開始
静岡県袋井市にアスタキサンチン原料工場が完成・稼働
ヤマハ発動機スポーツ振興財団を設立
- **2007年**
フィリピンで二輪車の製造/販売会社YMPHを設立
- **2008年**
カンボジアに二輪車の製造/販売会社YMKH設立
インドに二輪車の製造/販売会社YIMを設立
- **2009年**
第7代社長に戸上常司が就任
当社とヤマハマリン(株)が合併
トルコに販売会社YMTRを設立
- **2010年**
第8代社長に柳弘之が就任
- **2011年**
欧州と米国にIM製品の販売子会社YIME、YIMAを設立
東日本大震災の復興支援として和船の増産を開始
磐田南工場のエンジン組立を本社工場に移管・統合
- **2012年**
デザイン本部を設置
アセアン統合開発センター(タイ)とインド調達センターを設置
欧州市場で電動アシスト自転車ドライブユニットのOEM供給を開始
創業者 川上源一が日本自動車殿堂入り

(次のページに続く)

▶ 沿革（続き）

- **2013年**
ブランドスローガン“Revs your Heart”を制定
ヤマハ船外機の累計生産が1,000万台を達成
インドに二輪車開発会社YMRIを設立
中国にIM事業の販売会社YIMSを設立
静岡県菊川市に新たなテストコースが完成
- **2014年**
リーニングマルチホイールの第1弾「TRICITY」を発売
自動車用エンジンの累計生産が300万台を達成
アルゼンチンに二輪車生産の新工場が完成・稼動
次世代小型高性能エンジン“BLUE CORE”を開発
- **2015年**
ヤマハ発動機ジュビロが日本ラグビーフットボール選手権大会で初優勝
パキスタンの二輪車製造／販売会社YMPKが稼動
インドネシアの二輪車開発会社YMRIDが稼動
米国シリコンバレーに新事業開発の新会社YMVSVを設立
障がい者雇用促進のための新会社ヤマハモーターMIRAIを設立
- **2016年**
「ヤマハパフォーマンスダンパー」の生産累計が100万本を達成
- **2017年**
静岡県磐田市にヤマハモーターイノベーションセンターを開設
静岡県浜松市北区に新・浜松IM事業所を開所
ロードレース世界選手権通算500勝を達成
メディカル分野へのソリューションを提供する「CELL HANDLER」発売
- **2018年**
第9代社長に日高祥博が就任
電動トライアルバイク「TY-E」にて世界選手権へ初参戦
ヤマハモーターアドバンステクノロジーセンターを横浜市に開設
2030年を見据えた長期ビジョンを発表

▶ 従業員数

年 度	2014	2015	2016	2017	2018
ヤマハ発動機単体 (平均年齢)	10,377 (42.3歳)	10,440 (42.8歳)	10,511 (43.0歳)	10,564 (43.2歳)	10,614 (43.3歳)
連結子会社	42,285	42,866	42,639	43,015	43,363
計	52,662	53,306	53,150	53,579	53,977

▶ 賃金・一時金

年 度	2015	2016	2017	2018	2019
平均基準内賃金	325,986円	330,866円	333,140円	334,951円	336,176円
賃上げ額	3,500円	1,500円	1,500円	1,500円	1,400円
一時金	5.8ヶ月	6.0ヶ月	5.8ヶ月	6.3ヶ月	6.0ヶ月

▶ 新卒採用者数

年 度	2016	2017	2018	2019	2020(計画)
大卒*	212	207	205	227	185
（うち事務・営業系）	(50)	(60)	(63)	(77)	(65)
（うち技術・生産系）	(162)	(147)	(142)	(150)	(120)
高校卒	58	57	57	61	60
計	270	264	262	288	245

※大卒には、大学院卒・短大卒・高専卒・専門学校卒を含む。



FACT BOOK 2019

製品・事業編

二輪車



製品プロフィール

二輪車は実用的な移動手段から趣味やスポーツの対象としての用途まで、世界各地で人々の生活に役立ち、親しまれており、ヤマハ発動機グループでは多彩な製品ラインアップで応えています。主に通勤・通学や買い物といった日常の移動手段として用いられている「スクーター」、市街地の走行から遠距離ツーリングまで用途の広い「スポーツモデル」や「クルーザーモデル」、未舗装の道を走破するための「トレールモデル」、そしてロードレース・モトクロス等の「競技用モデル」・・・といったさまざまな用途に適した仕様が、独自の技術が盛り込まれています。

事業の歩み

ヤマハ発動機の母体となった日本楽器製造（現在のヤマハ株式会社で1897年設立）では、第2次世界大戦の間、楽器製造の技術を応用して軍用飛行機のプロペラを生産していましたが、終戦後に生産設備の平和利用が検討され、日本楽器製造のモーターサイクル製造部門として、二輪車事業に参入しました。第1号生産車となった「YA-1」は、初出場ながら当時の国内2大レー

スで連勝という快挙もあってその品質が高く評価され、その大量生産と市場導入にあたってヤマハ発動機株式会社が設立されました。数年後の1961年には世界選手権レースにも参戦、以降現在に至るまで常にレースの場でチャレンジを重ね、培った技術やノウハウを基にしたモノ創りが当社の特徴となっています。

当社や市場の現況

日本

市場全体では、通勤通学や業務使用が主な用途である50cc以下（原付1種）のスクーターが販売台数の1/2弱を占めています。51cc以上の二輪車については、趣味対象の大型車やスポーツモデルから実用用途のスクーターに至るまでカテゴリーは幅広く、AT（オートマチック）車に限定した運転免許があることも日本市場の特徴です。ここ数年はツーリングやスポーツライディングなどもこなせる趣味性の高い大型車と実用性の高い125ccクラスのスクーターが人気です。

日本の二輪車の種類と運転免許等の関係

排気量区分	～50cc以下	50cc超～125cc以下	125cc超～250cc以下	250cc超～400cc以下	400cc超～
道路交通法の車種区分	原動機付自転車	普通自動二輪車			大型自動二輪車
道路運送車両法の車種区分	原付1種	原付2種	軽二輪自動車	小型二輪自動車	
運転免許	原付免許	小型限定免許	普通二輪免許		大型二輪免許
一般道最高速度	30km/h	60km/h			
法定乗車人数	1人	2人（後部座席のないものを除く）			
高速道路走行	禁止		可能		
二段階右折	義務あり	原則禁止			
第一通行帯通行義務	義務あり	義務なし			
車検	制度なし			必要	



欧州

モーターサイクル発祥の地らしく、文化とあって差し支えないほど二輪車が深く社会に受け入れられており、市街地での移動手段として、旅を楽しむツーリングやサーキット等でのスポーツ走行といった趣味の対象として、二輪車ユーザーが年齢性別を問わず幅広い層に及んでいることが欧州市場の特徴です。モータースポーツが盛んな地域でもあり、二輪車レースの最高峰クラスであるMotoGPのシリーズ戦の約半分は欧州で開催されています。

北米

趣味の対象として二輪車を楽しむユーザーが大半を占めることが北米市場の特徴です。平坦で直線的な道路を走行するのに適した低い座席と大柄の車体をもつ「クルーザー」が代表的なカテゴリーですが、未舗装路や山間地でのオフロード走行をスポーツやレジャーとして楽しむ層も多く、プロアマ問わずさまざまなカテゴリーでのモータースポーツが盛んであることも北米市場の特徴です。

アセアン地域

1980年代以降にモータリゼーションが本格化したアセアン地域では、二輪車が通勤・通学や生活における主要な移動手段となっている地域も多く、物やサービスの移動を支える社会インフラとしても重要な役割を担っています。実用性を重視した125cc前後の排気量の二輪車が従来からの主流となっていますが、2000年代になってからは先進国市場のように趣味性・快適性を重視するユーザー層が増加しており、「オートマチック」二輪車を早期に導入した当社はリーディングカンパニーとして認知されています。

中国

年間の新車需要は700万台規模で、多くの二輪車メーカーが存在する中国は世界第2位の二輪車市場となっています。以前は市場の中で1割ほどのウェイトであったスクーター需要が近年では3分の1まで増えており、今後もさらに増え続けると想定されます。また、環境意識の高まりからFI(燃料噴射装置)を選択するユーザー層が増加しており、この層を確実に獲得していくための商品戦略を進めています。

インド

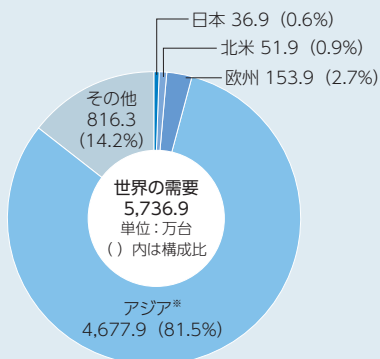
2018年の新車総需要が約2,200万台と、世界最大の二輪車市場となっているインドでは、スクーターカテゴリーの伸張が著しく、全体の3分の1を占めるほどになっています。モータリゼーションの拡大発展期に入っており、当社は2012年から積極的に新しいスクーターを導入し、若年層を中心に高い評価を得ています。さらにスポーツモデルにも注力しており、販売増に取り組んでいます。

主な生産拠点

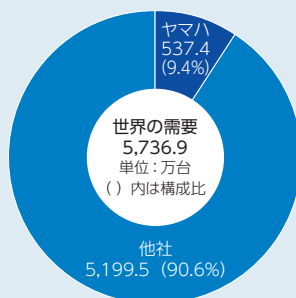
国/地域名	名称	
日本	ヤマハ発動機(株) 磐田本社工場	
フランス	MBK Industrie	
アジア	インドネシア	PT. Yamaha Indonesia Motor Manufacturing
	タイ	Thai Yamaha Motor Co., Ltd.
	ベトナム	Yamaha Motor Vietnam Co., Ltd.
	フィリピン	Yamaha Motor Philippines, Inc.
	マレーシア	Hong Leong Yamaha Motor Sdn.Bhd.
	台湾	Yamaha Motor Taiwan Co., Ltd.
	中国	Chongqing Jianshe Yamaha Motor Co., Ltd.
		Zhuzhou Jianshe Yamaha Motor Co., Ltd.
		Jiangsu Linhai Yamaha Motor Co., Ltd.
	インド	India Yamaha Motor Pvt. Ltd.
パキスタン	Yamaha Motor Pakistan Private Ltd.	
ブラジル	Yamaha Motor da Amazonia Ltda.	
中南米	メキシコ	Yamaha Motor de Mexico, S.A. de C.V.
	コロンビア	Industria Colombiana de Motocicletas Yamaha S.A.
	アルゼンチン	Yamaha Motor Argentina S.A.
ナイジェリア	CFAO Yamaha Motor Nigeria Ltd.	

二輪車 (続き)

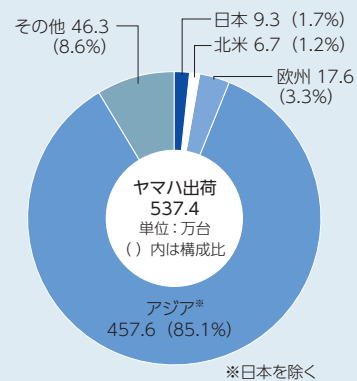
2018年 世界の総需要
(当社調べ)



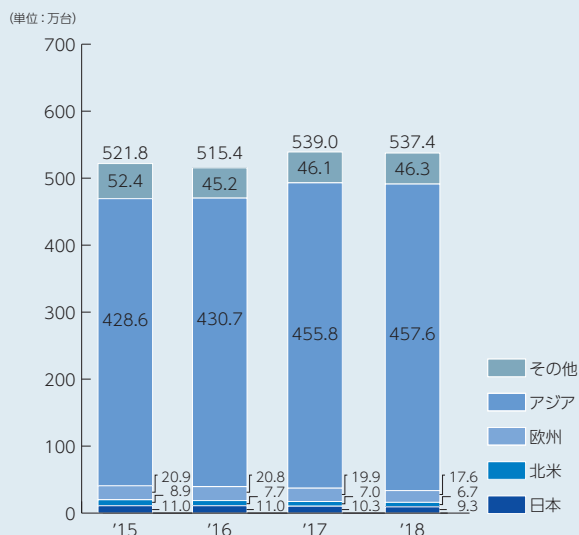
2018年 世界の総需要と当社出荷台数
(当社調べ)



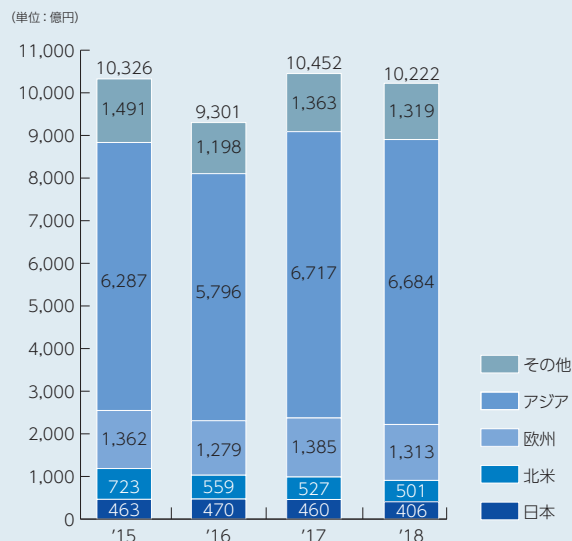
2018年 当社出荷台数



当社出荷台数の推移



当社売上高の推移



ボート



フィッシングボート[YFR-24 EX]



クルーザー[EXULT 43]



漁船[DW-480-0A]

製品プロフィール

ボートには業務用とレジャー用の2つの用途があります。業務用には主に漁業従事者の生活を支える「和船」と「漁船」があり、レジャー用には、フィッシング、クルージング、ウェイクボードなどで使用される「ボート」や「ヨット」があります。

事業の歩み

1950年代後半から、日本楽器製造（現在のヤマハ株式会社）と共同で、新素材として注目されていたFRP（ガラス繊維強化プラスチック）の研究開発に取り組み、1960年にFRP製ボートの生産・販売を開始。1965年にはヨットおよび漁船の生産も開始しています。

また、シミュレーションや3D・CADシステム等による開発設計、環境負荷の軽減につながる製造技術の導入についても継続的に取り組んでいます。

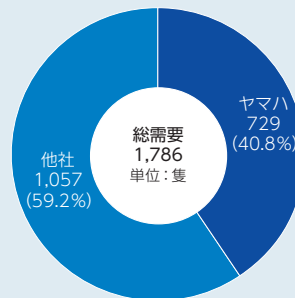
当社や市場の現況

当社は日本国内で、各地の漁法に合わせたさまざまな船体がある漁船や和船から、レジャー目的で使用される大型クルーザーやフィッシングボートまで、全てのカテゴリーを揃えたマリンのフルラインアップメーカーです。ここ数年の国内ボート市場では、10m以上の大型モデルの販売が好調です。

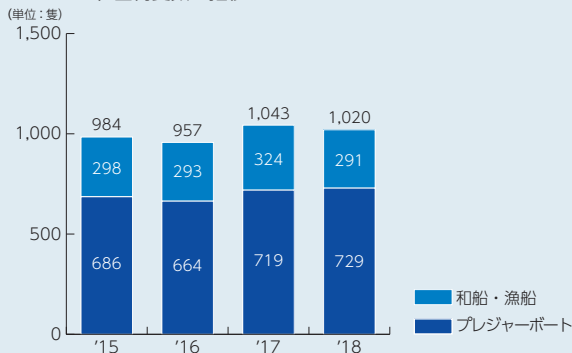
主な生産拠点

	名称	所在地
漁船・和船	ヤマハマリン北海道製造(株) ※グループ会社	北海道二世郡八雲町
小型ボート・和船	ヤマハ天草製造(株) ※グループ会社	熊本県上天草市
大型・中型ボート	ワイエム志度(株) ※生産委託	香川県さぬき市

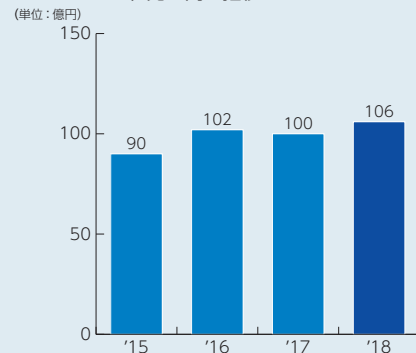
2018年 プレジャーボート国内需要
(当社調べ)



当社出荷隻数の推移



当社売上高の推移



マリンエンジン



F425A



F150D



F125A



F90C



F25G



F8F



F2B



M-15

製品プロフィール

船舶の動力として用いられるマリンエンジンには、「船外機」、「船内機」、そして「船内外機」の3種類があります。小型から中型までの船舶の動力として使われている船外機は、優れた経済性や環境性能、メンテナンスのしやすさ、高いスペース効率などが特徴で、欧米などの先進国では主にレジャーに、発展途上国では主に漁業や交通の手段として、世界各地でさまざまな人々に用いられています。

事業の歩み

二輪車で培った小型エンジン技術を応用し、1960年に当社初のマリンエンジンとなる小型船外機「P-7」を発売。その後50年以上にわたり、高出力モデル、低燃費化、過酷な使用状況での耐久性を重視したモデルなど、さまざまな用途や使用地域の環境に対応して、マリンエンジンのラインアップ拡充を図ってきています。2013年4月には船外機の生産台数が累計で1,000万台を達成しました。

当社や市場の現況

当社の船外機は、軽量・コンパクトで信頼性・耐久性に優れていることが基本コンセプトで、2馬力から425馬力までのレンジの広さ、環境対応の観点からも先進国を中心に需要が高い4ストロークモデルから、構造がシンプルなため途上国での使用環境にも適応できるエンデュアロモデル、さらには、沿岸漁業など

で使用される電動モデルに至るまで、レジャーユースから業務用まで幅広く活用されています。

また、船外機とあわせて船舶に搭載する製品には、操船者にエンジンの状態、航走状況などを知らせる「情報管理システム」や低速時や狭いエリアでの中・大型ボートの操船をサポートする「操船制御システム」などがあります。

船外機については海外輸出が90%を超え、現在では約180の国や地域で販売されています。主要市場である北米では、大型船外機の販売が好調で、2018年には、当社最大馬力となる425馬力のF425Aを投入し、好評を得ています。

環境規制への対応

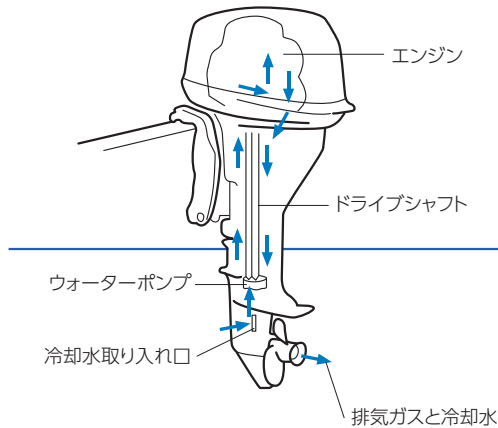
日本マリン事業協会による自主規制値だけでなく、2010年EPA(米国環境保護庁)排ガス規制や2008年CARB(カリフォルニア州大気資源局)規制に適合した製品をラインアップしています。

主な生産拠点

	名称	所在地
中・大型4ストローク 大型2ストローク	ヤマハ発動機(株) 袋井南工場	静岡県袋井市
中・小型4ストローク 中・小型2ストローク	ヤマハ熊本プロダクツ(株) ※グループ会社	熊本県八代市
小型4ストローク	Thai Yamaha Motor Co., Ltd. ※グループ会社	タイ

船外機の冷却の仕組み・特徴

船外機では海などの外部から水を取り込んでエンジンの冷却に利用しています(二輪車などの地上の乗り物で使われる水冷エンジンとの違い)。

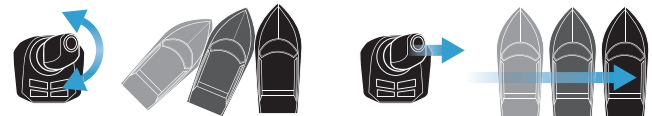


操船制御システム「ヘルムマスター」

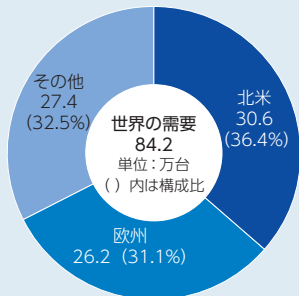


ヘルムマスター搭載艇 [SR330]

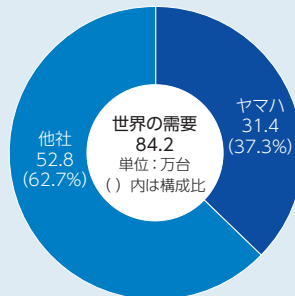
ステアリングやシフト操作、スロットル開度などの船外機のコントロールを電子的に制御。通常のステアリングとリモコンボックスによる操船に加え、低速時にはジョイスティック1本で前後・左右・斜め・その場回頭などが可能です。



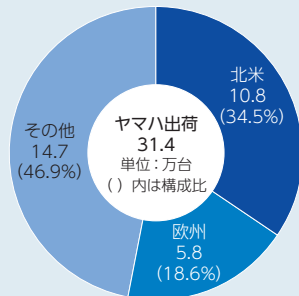
2018年 船外機の世界の総需要 (当社調べ)



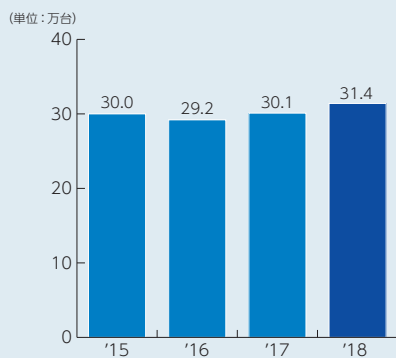
2018年 船外機の世界の総需要と当社出荷台数 (当社調べ)



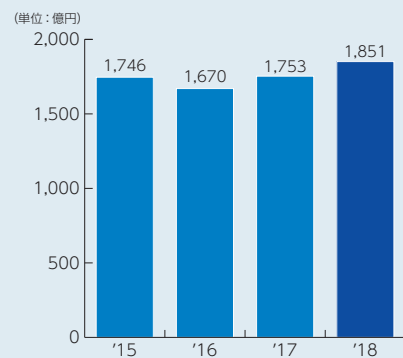
2018年 船外機の当社出荷台数



船外機の当社出荷台数の推移



当社マリンエンジン事業の売上高の推移



ウォータービークル



ウォータービークル [MJ-FX Cruiser SVHO]



スポーツボート [AR195]

製品プロフィール

ウォータービークルは、水上オートバイ、もしくはパーソナルウォータークラフト(PWC)とも呼ばれていて、立った状態で操縦するタイプ(定員1名)とシートに跨って操縦するタイプ(定員3名)があります。小型エンジンを動力として、プロペラではなく、船底から吸い込んだ水を船尾から噴出することで推進します。同じ推進システムを採用したスポーツボートも北米などで人気があります。

事業の歩み

1986年に最初の製品 [MJ-500T] を発売し、「誰もが安全に、そして手軽に、水辺で楽しめる乗り物」という製品コンセプトは、クルージングや釣りなどが主流であったマリナーの楽しみをひろげる新たなカテゴリーとして市場に受け入れられ、北米を中心に多くのファンを魅了しています。

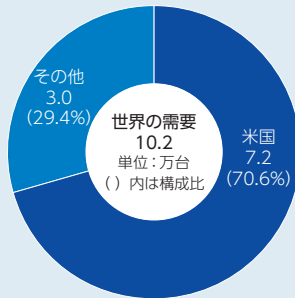
当社や市場の現況

舟艇で培った技術による凌波性・安定性に優れた船体と、二輪車やマリンエンジンの技術が反映された小型・軽量・高出力エンジンが当社製品の特長です。主な市場である米国や日本での環境規制、米国のEPA(米国環境保護庁)規制や日本マリン事業協会の自主規制をクリアした4ストロークエンジン搭載モデルが主流です。

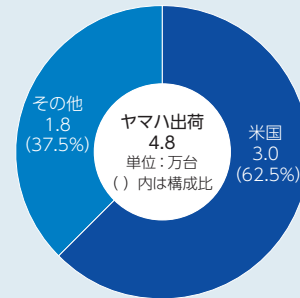
主な生産拠点

	名称	所在地
エンジン	ヤマハ発動機(株) 磐田南工場	静岡県磐田市
船体	Yamaha Motor Manufacturing Corporation of America(YMMC) ※グループ会社	米国 ジョージア州
	Yamaha Jet Boat Manufacturing U.S.A., Inc.(YJBM) ※グループ会社	米国 テネシー州

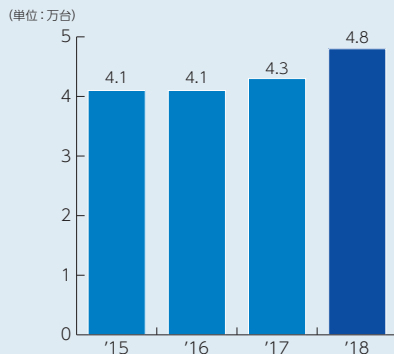
2018年 水上オートバイの世界の総需要
(当社調べ)



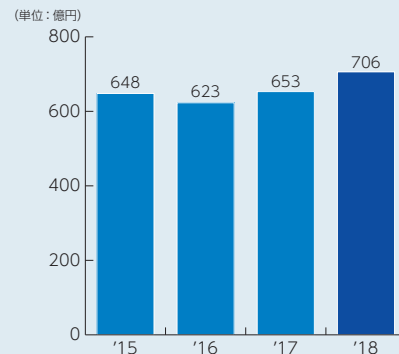
2018年 水上オートバイの当社出荷台数



水上オートバイの当社出荷台数の推移



当社ウォータービークル事業の売上高の推移



プール



スクールプール



フラットプール「グランシーナ」



幼児用プール



レジャー用プール

製品プロフィール

日本のプール需要としては、スクールプール、幼児用プール、レジャー用プール、健康増進・医療用プール、競技用プール、リニューアルプールなどがあります。素材(材質)別では、当社が手掛けているFRP(ガラス繊維強化プラスチック)製のほかには、金属やコンクリートによるプールがあります。

[参考：FRP製プールの利点]

軽量、高強度、加工のしやすさ、耐候性・耐震性・保温性に優れ、工期が短いこと(工場ユニット生産したものを現地で組み立てるため)

事業の歩み

ボートの開発製造において実績を重ねたFRP技術を活かし1974年に日本で初めてオールFRP製プールの製品化に成功、数多くのプールを日本全国で納入しています。

スクールプールの累計出荷は国内トップの施工実績となるとともに、近年幼保プールの販売も好調となっています。

当社や市場の現況

公共施設、幼稚園、保育園、小中学校等ではプール施設の老朽化が顕著になってきており、新築や改築需要も増えてきています。また、プールは高齢者や障がいのある方でも、安心してウォーキングや水中運動が行えるため、福祉施設や民間スイミングクラブ等でも、健康増進を目的に多くの方に利用いただいています。当社では、世代やライフスタイル等、さまざまな利用目的にあった製品ラインアップの拡充や、環境に配慮したプールのリサイクルやリユース、プール本体以外の周辺機器や新技術の導入等を積極的に進めています。

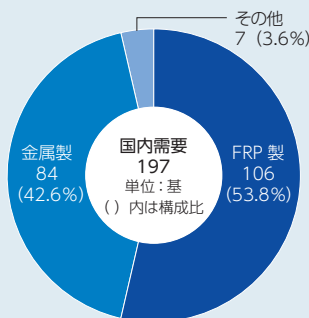
また、韓国などアジア近隣国を中心とした海外市場へも、25mプールや幼児用プールを展開しています。

プールのリーディングカンパニーとして、企画設計から製造・施工・アフターサービスまでトータルにサポートしています。

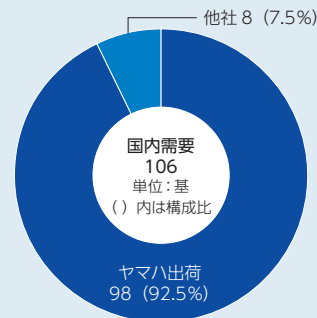
主な生産拠点

名称	所在地
ヤマハ発動機(株) 新居事業所	静岡県湖西市

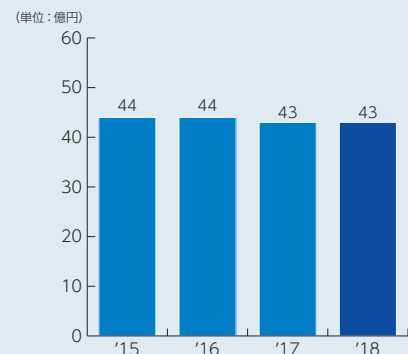
2018年 公共スクールプール(20m以上)の国内総需要と素材別内訳(当社調べ)



2018年 FRP製プール(20m以上)の国内総需要と当社出荷基数(当社調べ)



当社プール事業の売上高の推移





Grizzly EPS



YZZ1000R SS



Wolverine X2 SE

製品プロフィール

ATV(全地形対応型車両：四輪バギー)とROV(レクリエーション・オフハイウェイ・ビークル)は、未舗装の不整地、草原、山道、砂地などを走行可能なオフロード専用車両です。乗員定員が1名でバーハンドルなどの二輪車に近い操縦系をもつATVに対し、ROVは乗車定員が2名以上でステアリングホイールなどの自動車に類似した操縦系をもち、レジャー・スポーツ走行から農作業などの業務に至るまで、幅広く使用されています。

事業の歩み

当社のATVはオフロード二輪車の開発・製造で培った技術を応用して開発され、1979年に最初の製品「YT125」を米国で発売し、市場のニーズに応じてさまざまな製品を販売しています。また、ROV製品については、マルチパーパスモデル、レクリエーションモデル、ピュアスポーツモデルなどを幅広くラインアップ。2018年には新たに「Wolverine X2」をレクリエーション

ラインアップに追加し、北米を中心とした海外市場での販売強化を図っています。

当社や市場の現況

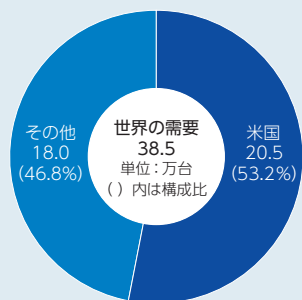
ATVについては、不整地や未舗装路が多く、広大な牧場や農地が各地にある米国市場が、全世界の需要の50%以上を占めています。当社は業務用からスポーツタイプなど、多彩な製品バリエーションを用意して多様なニーズに応えています。

同じく米国がメイン市場となっているROVについては、アウトドアレジャーを楽しむ道具としての需要に加え、さまざまな業務で活躍する車両としての需要も安定してあるため、市場規模の拡大傾向が続いています。

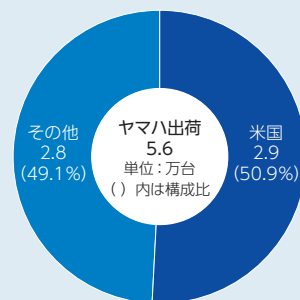
主な生産拠点

名称	所在地
Yamaha Motor Manufacturing Corporation of America ※グループ会社	米国ジョージア州

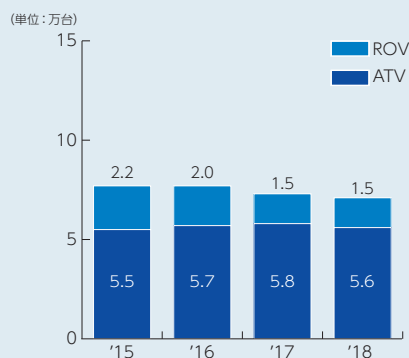
2018年 ATVの世界の総需要
(当社調べ)



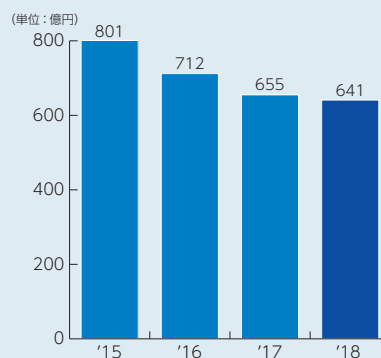
2018年 ATVの当社出荷台数



ATV・ROVの当社出荷台数の推移



当社 ATV・ROV 事業の売上高の推移



スノーモビル



Sidewinder B-TX LE



VK10 Professional II



Snoscoot ES

製品プロフィール

前部にある2本のスキーで進行方向を操作し、後部のトラックベルトをエンジンで駆動することで雪上を走行します。積雪地帯の人々の移動手段、さらにスポーツやレジャー用の乗り物として発達してきており、主な用途はレジャー用・業務用の2つとなっています。また、日本では冬季の送電線保全作業、耕作地への融雪剤散布や氷結湖での養殖漁業などでも使用されています。

事業の歩み

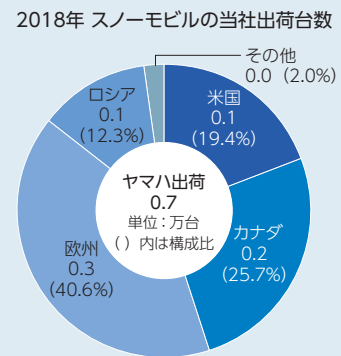
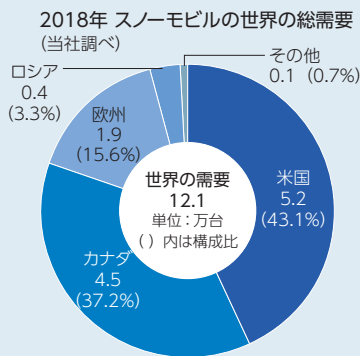
1968年に二輪車で培ったエンジン技術などを応用した最初のモデル「SL350」を発売、1970年にはレジャー用モデルを発売しており、現在に至るまでラインアップの充実を図りながら、唯一の国産メーカー(完成車)としてさまざまなニーズに応えています。

当社や市場の現況

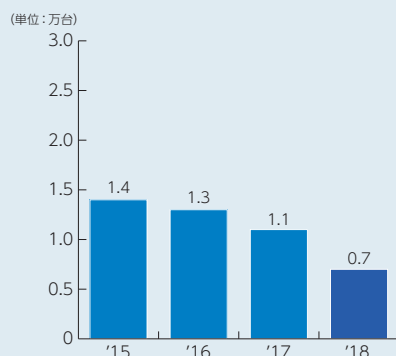
主な市場は北米・ロシア・北欧(スウェーデン・ノルウェー・フィンランド)などですが、日本や北欧以外のヨーロッパ、アジアなど30ヶ国あまりで販売されています。近年は、この分野でも環境対応が求められており、当社は搭載エンジンの4ストローク化を率先して進めてきています。

主な生産拠点

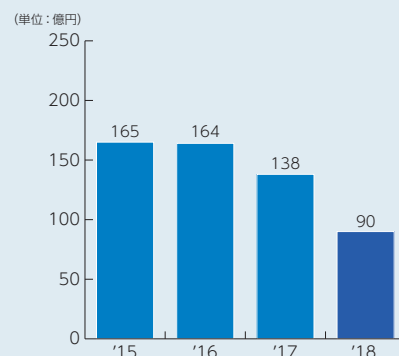
名称	所在地
ヤマハ発動機(株) 本社工場	静岡県磐田市



スノーモビルの当社出荷台数の推移



当社スノーモビル事業の売上高の推移



ゴルフカー



G30As(5人乗りモデル)



YDR(2人乗りモデル)

製品プロフィール

近年のゴルフ場では、省力化・セルフ化・キャディーの負担軽減、そして円滑なプレーを可能にする乗用タイプのゴルフカーが主流になっています。市場や顧客(ゴルフ場)のニーズにより、乗車定員(1名/2名/5名)、動力(エンジン/電動モーター)、運転方式(電磁誘導/マニュアル)などが異なった仕様があります。

事業の歩み

日本楽器製造(現在のヤマハ株式会社)が運営するリゾート施設で使用するためのランドカー開発に1972年に着手したことが発端となってゴルフカーの開発に取り組み、1975年に最初の製品[YG292]を発売しています。その後、事業拡大に伴い、国内の生産工場に加えて1988年には米国で、2015年にはタイで生産を開始し、累計生産台数は100万台を超えています。

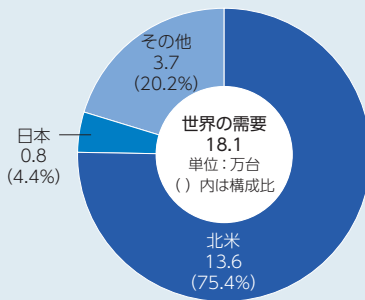
当社や市場の現況

日本ではキャディーも乗車可能な5人乗車モデル、プレーヤーのみのプレースタイルが一般的なアメリカでは2人乗りモデルがメインとなっています。また、1996年には地中に埋めた電線を車体のセンサーが感知することで自動走行し、リモコン操作も可能な電磁誘導モデルを導入、2000年には環境負荷が少なく静粛性も高い電動モデル、2018年には走路記憶型の運転支援システムを搭載したシリーズを導入するなど、よりお客様に高い価値を提供するための進化を続けています。

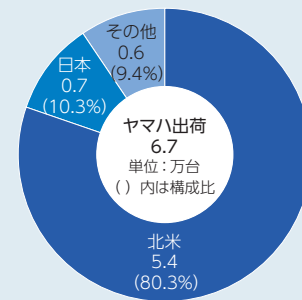
主な生産拠点

名称	所在地
ヤマハモーターパワープロダクツ(株) ※グループ会社	静岡県掛川市
Yamaha Motor Manufacturing Corporation of America(YMMC) ※グループ会社	米国 ジョージア州

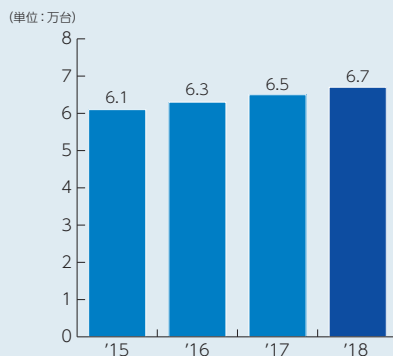
2018年 ゴルフカーの世界の総需要
(当社調べ)



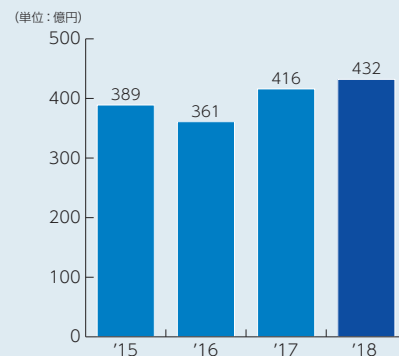
2018年 ゴルフカーの当社出荷台数



ゴルフカーの当社出荷台数の推移



当社ゴルフカー事業の売上高の推移



発電機



EF1800iS



EF5500iSDE



EF2500i

製品プロフィール

当社の発電機は、ガソリンやカセットボンベを燃料とする小型エンジンを動力に電気を発生させるタイプで、片手で持ち運べる軽量コンパクトなものから、建築現場などで工具や照明機材の電源として使用される業務用までラインアップしています。パソコンなどの精密機器の電源としても使用可能なインバーター方式を採用した製品もあり、停電時などの緊急・非常用電源や災害現場の電源としても活躍しています。

事業の歩み

小型エンジン技術をベースに、1973年に最初の製品「ET1250」を発売しています。

当社や市場の現況

業務用以外にもニーズが広がり、基本性能である良質で安定した電力供給、耐久性、信頼性に加え、低騒音、操作の簡単さ、幅広い使用環境への対応が求められるようになってきました。日本陸用内燃機関協会による国内の排ガス自主規制をはじめ、世界の厳しい排ガス規制をクリアした4サイクルエンジンの採用、インバーター搭載モデルの充実などを積極的に進めています。

主な生産拠点

名 称	所在地
ヤマハモーターパワープロダクツ(株) ※グループ会社	静岡県掛川市
Yamaha Motor Powered Products (Jiangsu) Co.,Ltd. ※グループ会社	中国江蘇省

除雪機



YS-1390AR



YSF860-B



YSF1070T-B

製品プロフィール

北海道・東北・北関東・甲信越・北陸・山陰地方などの積雪地域で、冬の除雪作業を楽にする製品として活躍しています。当社では個人宅などの玄関先や通路での使用にも適した小型モデルから、業務にも活用できる大型モデルまで、幅広くラインアップしています。

事業の歩み

小型エンジン技術を活用して、1978年に最初の製品「YT665」を発売しています。

当社や市場の現況

当社では、家庭用を中心に、積雪量や除雪する場所の広さ、雪質に合わせて選べる15機種をラインアップ。40年の実績に基づく技術とノウハウを活かした機能や操作性、耐久性の高さで好評を得ています。

主な生産拠点

名 称	所在地
ヤマハモーターパワープロダクツ(株) ※グループ会社	静岡県掛川市
Yamaha Motor Powered Products (Jiangsu) Co.,Ltd. ※グループ会社	中国江蘇省

電動アシスト自転車



PAS Crew Disney edition



PAS Kiss mini un



PAS With DX



PAS CITY-V



YPJ-ER



YPJ-XC

製品プロフィール

電動アシスト自転車は、人がペダルをこぐ力をバッテリーとモーターが補助（アシスト）する仕組みを持った自転車で、当社が開発し、1993年に発売した「PAS（パス）」*が世界初の製品となっています。自転車の持つ手軽さや利便性に加えて、基本的な弱点（坂道、向かい風、荷物積載時の負荷など）を効果的に補い、誰もが気軽に乗れることが特徴です。通勤や通学、幼児の送り迎え、買い物、レジャー、都市部での業務など、若年層からシニア層までのさまざまな移動を支えるパーソナルコミューターの新たなカテゴリとして普及が進んでいます。

※製品名はPower Assist System（パワー・アシスト・システム）の頭文字が由来となっています。

事業の歩み

1980年代に表面化した、省エネルギーをはじめとする「地球環境問題」や少子高齢化という「社会的な問題」に対する課題認識が発端となって、「人間感覚を最優先した、人に地球にやさしいパーソナルコミューター」という開発コンセプトのもとに、既存のカテゴリには属さない新たな乗り物として開発に取り組み、1993年に世界初となる製品を発売。以来、パイオニア企業として製品の熟成や普及に取り組み、2016年には累計出荷台数200万台を達成しています。

2014年には「軽量・コンパクト・高性能」による走りの楽しさと環境性能を具現化する新コンセプト“GREEN CORE（グリーンコア）”に基づいた次世代のドライブユニットを開発、2015年より

PAS主要モデルに搭載しています。なお、2015年には、新コンセプトのスポーツ電動アシスト自転車ブランド「YPJ」を立ち上げ、第1弾としてロードバイク「YPJ-R」を、2016年にはクロスバイク「YPJ-C」を発売。2018年には、e-MTB「YPJ-XC」をはじめ、「YPJ-ER」「YPJ-EC」「YPJ-TC」を発売し、モデルラインアップを拡充しました。

当社や市場の現況

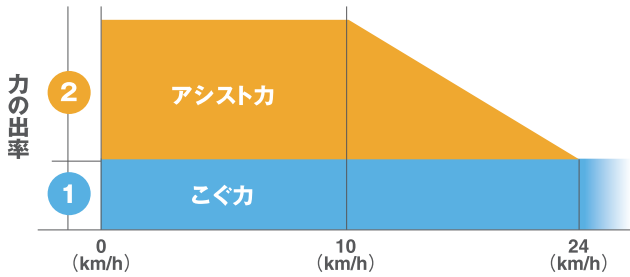
世界に先駆けて、1993年に電動アシスト自転車を開発・発売して以来、ラインアップの充実やさまざまな進化熟成を進めてきました。

ユーザーや使用シーンの拡大のほか、健康志向や環境意識の高まり、交通環境の変化、ガソリン価格の高騰などの社会的な要因もあって、電動アシスト自転車へのニーズは多様化しており、市場規模も拡大してきています。

また、2008年12月には「電動アシスト自転車のアシスト比率に関する法令基準の改正」が施行され、2009年7月には「幼児二人同乗用自転車安全基準」が制定されるなど、電動アシスト自転車の基準も変化してきています。

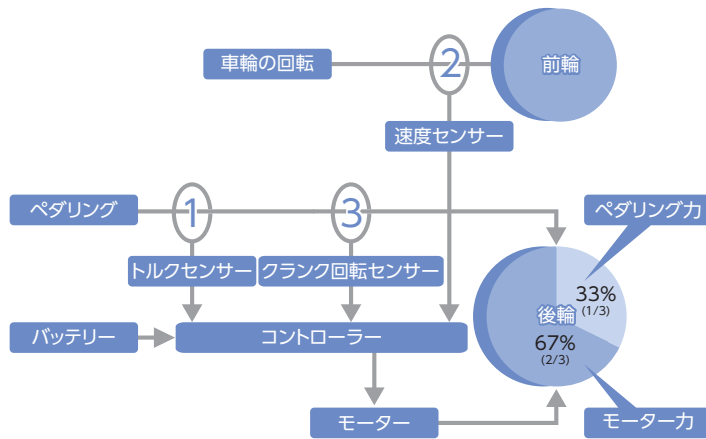
2012年には、国内での完成車販売、ドライブユニットの供給ビジネスに加え、近年、世界有数の電動アシスト自転車市場となっている欧州地域（ドイツとオランダ市場が全体の50%以上）で、主要メーカーにドライブユニットのOEM供給を開始。欧州の市場拡大とともに出荷台数は伸長しており、ビジネスのグローバル展開が拡大しています。

電動アシストの法令基準



時速10kmまでは、こぐ力とアシストの比率は「最大1:2*」
 時速10kmを超えてからは、スピードが出過ぎないようにアシストを制限
 時速24kmを超えてからは、アシストはなし
 *法令基準で定められている最大比率

PASシステムの概略

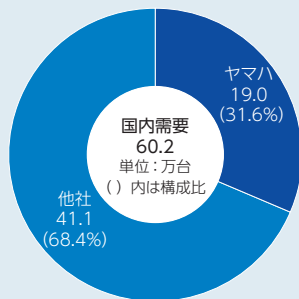


- ①ペダルを踏む力を感じ
- ②走行中の車速を感じ
- ③ペダル(クランク)を回す速さを感じ

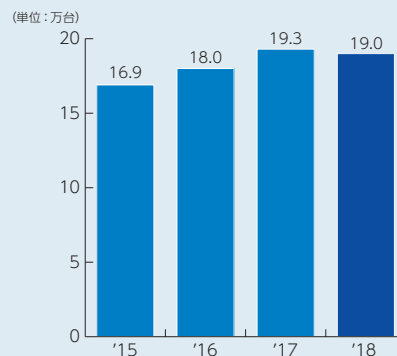
主な生産拠点

	名称	所在地
PASユニット (ドライブユニット)	ヤマハモーターエレクトロニクス(株) ※グループ会社	静岡県周智郡森町

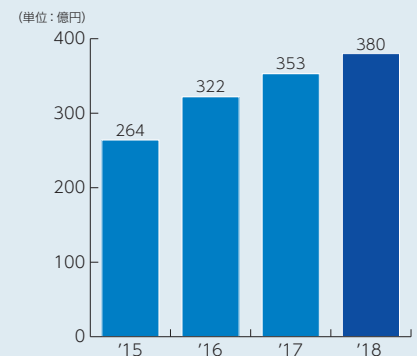
2018年 国内需要と当社出荷台数(完成車のみ)
(当社調べ)



2018年 当社出荷台数の推移(完成車のみ)



当社SPV事業(PASほか)の売上高の推移



— 電動車いす



電動車いす「JWアクティブ PLUS+」



電動アシスト車いす「JWスウィング」

製品プロフィール

障がいのある人や高齢者の移動をサポートする車いすは、手動式と電動式の2つに大別されます。当社では、手動式の軽さや機動性と、電動式ならではのパワーや走破性を併せ持つ、新しい車いすの世界を提唱するJW(Joy Wheel)シリーズとして、電動ユニットと、そのユニットを装着した完成車を発売しています。電動ユニットには、手動車いすを電動化する「車いす用電動ユニット」と電動アシストの力で車いすの操作をラクにする「車いす用電動アシストユニット」があります。

<電動タイプ>

折り畳めて持ち運びが便利であるなど、手動車いすのメリットをそのままに、手動車いすを電動化します。ジョイスティックレバーを採用した操作部、モーターやクラッチ機構を内蔵したホイール、小型軽量バッテリーから構成されています。

いろいろな種類の車いすに取り付け可能で、ジョイスティック1本の簡単操作でめぬらかに走行できます。



車いす用電動ユニット「JWX-1 PLUS+」と取り付けイメージ

<アシストタイプ>

手動車いすのハンドリムを漕ぐ力を電気力で補助します。仕組みは、電動アシスト自転車PASIに使われている「パワー・アシスト・システム」を応用したものです。軸部にモーター等を内蔵した車輪と、ハンドリム型のトルクセンサー、小型軽量バッテリーから構成されています。

横に傾斜している道でも真っ直ぐに走行可能な「片流れ制御」や、ひと漕ぎあたりのアシスト走行距離をより長く、あるいはより短く調整できる「アシスト距離制御」などの機能を搭載。専用ソフト

「JW Smart Tune(ジェイダブリュ スマート チューン)」で使用者の身体の状態や使用環境に合わせて設定可能です。また手動車いすと同じ操作を行うので、残存機能の活用に役立つと評価されています。



車いす用電動アシストユニット「JWX-2」と取り付けイメージ

事業の歩み

健康・福祉分野への貢献や高齢化社会対応への一環として、当社独自の制御技術や駆動技術などを応用し、手動車いすを電動化するユニットを1995年に地域限定で販売開始しました(全国発売は1996年)。

以来、独自の高度な制御技術や駆動技術などを応用し、使用者の快適性・利便性に加え、介助者の負担軽減などを追求した電動車いす製品を提供しています。

当社や市場の現況

日本では、主に障がいのある人が補装具の認定品として使用するケースと、高齢者が介護保険制度を使ってレンタル利用する場がほとんどです。

また、日本以外では、米国や欧州・豪州・韓国などのメーカーにユニットのOEM供給を行っています。

主な生産拠点

名 称	所在地
ヤマハ発動機(株) 本社工場	静岡県磐田市

サーフェスマウンター・産業用ロボット



サーフェスマウンター「Z:LEX」



光学式外観検査装置



垂直多関節ロボット



スカラロボット

製品プロフィール

携帯電話や自動車の電装部品などに内蔵されているプリント基板に電子部品を装着するためのロボットが表面実装機（サーフェスマウンター）です。産業用ロボットは、「単軸ロボット」、「直交ロボット」、「スカラロボット」、「垂直多関節ロボット」、「リニアコンベアモジュール」をフルラインアップで取り揃え、搬送、供給、組立、検査といったさまざまな生産工程に対応します。

事業の歩み

自社の二輪車生産の合理化や加工精度の向上を目的に1974年から産業用ロボットの研究・開発をスタート。1976年に部品組み立て用スカラロボットを自社の生産ラインに投入して、1981年にロボット事業分野に参入。1987年にサーフェスマウンターの販売を開始して2017年には累計生産台数4万台を達成しています。

当社や市場の現況

主力製品であるサーフェスマウンターは、単体時だけでなく、複数台使用や連結時における搭載速度と精度に優れたモジュール型高速機であることが特徴で、汎用機分野ではトップシェアと

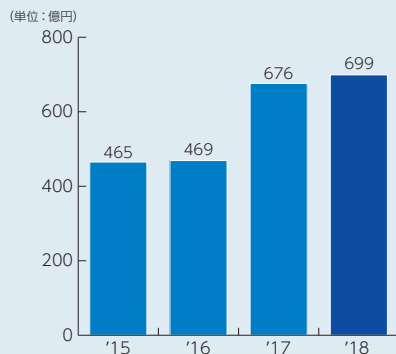
なっています。当社は、大量高速生産から汎用性の高い多品種対応生産まで、市場ニーズの変化に応えるサーフェスマウンターのラインアップを充実させるとともに、印刷機・ディスペンサー・検査装置までの基盤実装設備のフルラインアップメーカーとして、事業を展開しています。

また当社の産業用ロボットは、単軸ロボットから垂直多関節ロボットまでフルラインアップを取り揃えている点が特徴です。自動車業界、電気・電子業界、食品業界など多種多様な分野で採用され、生産工程の自動化に大きく貢献しています。

主な生産拠点

名称	所在地
ヤマハ発動機（株）浜松ロボティクス事業所	静岡県浜松市

当社 ロボティクス事業（サーフェスマウンターとロボット）の売上高の推移



自動車用エンジン



自動車用エンジン



パフォーマンスダンパー



製品プロフィール

当社製品の特徴は、二輪車で培ったエンジン技術が反映され高回転・高出力型であることにあり、近年の例としてはレクサスのスポーツモデル「LFA(エルエフエー)」に搭載されたエンジン(トヨタ自動車株式会社との共同開発)があります。また、サスペンションシステムや関連する技術を用いた製品の開発製造も行っており、車体に付加することで上質で快適な乗り心地などの性能向上につながる「パフォーマンスダンパー」は、当社独自の技術が高く評価されています。国内主要メーカーに広く採用され、2016年11月には累計生産本数100万本を達成しました。

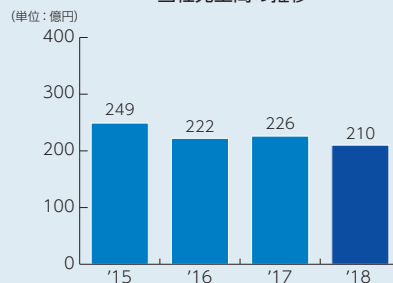
事業の歩み

創業以来、二輪車の開発を通じて技術の蓄積を重ねる一方で、自動車用エンジンに関する技術研究や開発にも取り組み、1967年には現在のトヨタ自動車株式会社と「トヨタ2000GT」の共同開発・生産をスタート。これが契機となって自動車メーカーとの共同開発を行う事業体制の構築が進み、1989年には自動車レースの世界最高峰であるF1(フォーミュラワン)選手権にも参戦するなど、常に最新の技術が反映されたエンジン開発に取り組んできています。

主な生産拠点

	名称	所在地
エンジン組立	ヤマハ発動機(株) 本社工場	静岡県磐田市
エンジン加工	ヤマハ発動機(株) 袋井工場	静岡県袋井市
パフォーマンスダンパー	ヤマハモーターハイドロリックシステム(株) ※グループ会社	静岡県周智郡森町

当社売上高の推移



その他

▶ 部品・用品



二輪車やボートなど、当社製品の補修用部品およびヘルメットやアパレルなどの用品・アクセサリーを販売しています。

▶ プレジャーボート係留施設



マリーナで使用される桟橋などの関連機器を販売しています。

産業用無人ヘリコプター



YMR-08



FAZER R



送信機



米国の葡萄畑での試験散布

製品プロフィール

GPSによる速度制御機能を組み入れた操縦安定サポートシステムや、優れた操作性・飛行安定性を実現する姿勢制御装置には、当社のコア技術である「制御技術」が活用されています。

2016年に発売した新製品「FAZER R」では、当社の産業用無人ヘリコプター史上最大となる32Lの薬剤を搭載することができるため、薬剤および燃料無補給で4haの農薬散布を可能とし、散布作業における圧倒的な効率化・省力化を実現しています。

2019年3月には農薬散布を目的とした産業用マルチローター（ドローン）「YMR-08」を発売。無人ヘリコプターとともに、日本の農業の省力化・効率化の貢献を進めています。

<農業分野>

自治体や全農・経済連・農業協同組合・防除組織・農業生産者などが主なユーザーで、薬剤散布が主な用途となっています。農業用無人ヘリコプターは作業の効率化による労働負荷軽減と生産性向上に貢献しています。

<観測・測量分野>

無人ヘリコプターを利用した観測・調査などの業務を自治体や大学・研究機関などに提供しています。

事業の歩み

1980年代のはじめに、農地への薬剤散布を簡単に行える無人ヘリコプターの開発を政府団体から委託されたことが発端となって、1987年に世界初となる産業用無人ヘリコプター「R-50」を実用化、1989年に本格的な販売を開始しました。

以来、リーディングカンパニーとして、日本国内では農業の近代化への貢献や測量・観測業務の拡大をはかるとともに、近年は海外における農業市場での利用推進にも努めています。

主な生産拠点

名称	所在地
ヤマハ発動機(株)袋井工場	静岡県袋井市

▶ 浄水装置



アフリカや東南アジアなどの飲用水に恵まれない地域の生活環境の向上に寄与するために製造・販売しています。

▶ レーシングカートエンジン



四輪モータースポーツのエントリークラスであるレーシングカート専用のエンジンを製造・販売しています。

